

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：14401

研究種目：挑戦的研究(萌芽)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K18462

研究課題名(和文)組織における価値の働きに関する臨床哲学的研究

研究課題名(英文)Clinical philosophical study of the workings of value in organizations

研究代表者

堀江 剛(Horie, Tsuyoshi)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50379898

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：組織(特に病院や福祉施設などの医療・福祉に関連するヒューマン・サービス組織)における「価値(大切にしているもの)の働き」について、本研究では少人数での哲学対話(ソクラテック・ダイアローグ)を合計5回実施するとともに、市民団体が主催する医療者・市民向けの対話セミナーへの協力、また理論研究として「病院組織と倫理問題」に関する報告(組織学会)を行なった。また、哲学対話の成果とその分析として著書(分担執筆)を刊行した。このような臨床哲学的研究によって、組織の捉え方(価値の置き方)に関して、単なる理論研究や(アンケート・統計等の)量的研究では見えてこない側面を析出することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

組織で働く人々、ないしは組織に関与する人々(患者やクライアントなど)が「組織」に関して何を求め、組織をどのように捉えているかについて、具体的な事柄をテーマにした「対話」による参加型の探究を試みた。これによって、哲学・倫理学における「価値」の理論、社会諸科学(特に経営論・組織論)における理論と、私たちの日常生活上の思考とを橋渡すことができた。学術理論的には、人々が「組織」を実体的に捉えることなく、むしろ組織内外で遭遇する「ディスコミュニケーション」が働く場所として組織を批判的・力動的に捉える可能性を示したことが大きな意義である。

研究成果の概要(英文)：Regarding the "work of value (what we value)" in organizations (especially human service organizations related to medical care and welfare such as hospitals and welfare facilities), in this research we conducted a philosophical dialogue (socratic dialogue) with a small number of people, conducting a total of five times. In addition, we cooperated with a dialogue seminar for medical professionals and citizens sponsored by civic groups, and reported on "hospital organization and ethical issues" as a theoretical study (organization society). We also published a book (shared writing) as a result of the philosophical dialogue and its analysis. Through such clinical philosophical research, we were able to identify aspects of how to concept organizations that cannot be seen by mere theoretical research or quantitative research (questionnaire, statistics, etc.).

研究分野：哲学・倫理学

キーワード：組織 価値 対話 哲学対話 ソクラテック・ダイアローグ ヒューマン・サービス組織

### 1. 研究開始当初の背景

(1) 哲学・倫理学の領域において「組織」に関する具体的な考察は十分には行われていないのが現状であった。また、社会諸科学（特に経営理論・組織論）において、企業組織や官僚組織に関する考察の蓄積はあるものの、非営利組織、特に病院や福祉施設など「対人」を軸にしたヒューマンサービス組織に関する考察は少なかった。

(2) さらにこうした考察を、組織で働く人々ないし組織を利用するクライアントの具体的な思考に基づいて実施する方法がなかった。本研究では、少人数（5-8人）で2日程度かけて徹底的に対話を実施する「ソクラテック・ダイアログ」の手法を採用し、上記の学術上の欠損を補うとともに、臨床哲学的研究として新たな思考の可能性を見出すことが目指された。

### 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、組織、特にヒューマンサービス組織において「価値がどのように働いているか」を、哲学・倫理学と組織論における分野横断的な交流を通して、また方法的には哲学対話を用いた独自の研究調査方法によって解明することである。

(2) 一般に「価値」とは、人々が社会において生活・活動するとき、何を大切にするか、どのような観点や理由を優先して判断・行動するか、といったことに対する意識的・無意識的な基準ないし参照点を示す概念である。また特に経済学においては、人々が社会的協働・交換の中で作り出すもの、あるいは人々の選好・満足の程度を表すものとして、価値という言葉が使われる。倫理学を含めた人々の行動や実践に関する諸原理を探求する学問において、価値の概念は基本的ではあるが、その意味は非常に多義的かつ曖昧であり、学問的に問い直される機会は少ない。とりわけ、私たちの具体的な社会実践の中で、諸々の価値がどのように使われ・働いているかという観点に立った研究は、ほとんど未開拓の領域であると言える。また価値は、基本的に個人に現れるものと見なされており、社会／個人の間にある社会実践の場、具体的には「組織」という実践の場で、どのように働いているかに関する議論がない。

(3) こうした状況において、価値に関する別の理論的展開も見られる。近代以降、企業、行政組織、軍隊、警察、政党、労働組合、学校、病院、大学、学会、NGO/NPO、宗教団体、ボランティア団体など、極めて多様な「組織」が発達し、今日に至っている。現代組織論は、これらを協働的な意思決定過程のシステムとして捉え、意思決定前提において価値が果たす役割についても議論している。そこには、協働による価値の創造、営利組織が優先する利潤とその他の価値とのバランス、成員が組織に貢献しようとする際の動機づけに用いられる価値、組織文化として醸成される価値、そうした価値における機能と逆機能など、哲学・倫理学にはない「価値の働き」に関する豊かな考察が含まれている。この展開は、上に述べたような「個人／社会」の図式だけでは不十分な価値概念の説明を克服する上でも、また価値を機能という視点から捉え直す上でも、極めて有益なものである。

(4) 組織論は、行政組織における支配機構としての官僚制の解明、あるいは主に製造業を中心とした大企業における科学的経営管理論として発展してきたという経緯を持つ。従って、そこで働く「価値」の様相は、法規範や政治的目的の遂行、ないし経済的価値としての利潤の追求を自明の前提にした議論になる。しかし組織はこのような形態だけに限られず、学校、病院、福祉施設などもある。これらは、直接人と接する中で一定のサービスを提供する「ヒューマンサービス組織」であり、非営利性を前提ないし主軸とする点で企業とは大きく異なる。また、この種の組織において使われ・働く「価値」の様相も複雑であるという特徴を持つ。対人サービスでは、顧客（学生・患者・施設利用者など）の価値観をどのように尊重するかという課題が常にあり、今日ではその多様化が甚だしい。組織成員が持つ価値意識も、特に病院がそうであるように、専門職によって大きく異なる場合がある。非営利組織やヒューマンサービス組織に関する研究は現代組織論でも始まったばかりであると言われているが、そこで「価値」の視点が重要になると考えられる。

### 3. 研究の方法

(1) 人文社会科学における「価値」概念に関する文献的研究：哲学・倫理学に限らず、経済学や法学も含めた人文社会科学系学術分野において、伝統的に「価値」がどのように議論されてきたか、また今日どのように議論されているかを書籍・論文の調査によって探査・整理する。

(2) 組織論における「価値」概念の扱い方に関する文献的研究：20世紀において組織論を展開してきた主要な理論家（Chester I. Barnard, Herbert A. Simon, Niklas Luhmann）の文献を精査し、組織論において「価値」概念がどのように位置づけられているか、どのような諸概念と関

連付けられているか、その全体像を組織論や経営学を専門とする研究者と議論しつつ整理する。

(3) 哲学対話の実施：人々の意識や行動様式を調査する方法として「ソクラテック・ダイアログ」という哲学対話法を用いる。この方法は、日常的な判断に潜む諸前提について、少人数(5-8人)ではあるが、参加者自身の具体的な経験に基づいて共同で反省・吟味できるという独自な特徴を持っている。実施回数は、3年間で6回程度を予定。

(4) 価値の「働き」に関する分析：哲学対話の記録から、仕事/生活上の「価値」がどのように考えられており、組織においてどのように機能しうるかについて、組織論及び組織倫理の研究者と議論を行いつつ分析する。

(5) 成果の公表及び組織への還元：本研究の成果は、適切な学会での口頭発表・論文投稿、あるいは冊子報告書のかたちで公表するとともに、哲学対話に協力した参加者及び組織に還元する。その際、組織における価値の働きの研究に関して、さらなる示唆・課題を発見することに努める。

#### 4. 研究成果

(1) 哲学対話として、2018-2020年度に「仕事と価値」ないし「組織」をテーマとしてソクラテック・ダイアログを合計5回実施した。一回の対話で設けた時間は8~10時間、主に研修施設等で一泊二日の日程を組むかたちで行なった。参加者は、大学教員、大学院生、医療・福祉関係者、哲学対話の実践者、一般市民など、各回において多様な顔ぶれとなった。進行役は基本的に筆者が務めたが、対話進行役の研修を兼ねるかたちで参加者の中から希望者に(セッションを限定して)進行役を任せたまつた。そのときには研究代表者がスーパーバイズを行なった。以下が実施した対話の「問い」と参加者・実施日である。

- 仕事が「上手くいく」とはどのようなことか (8名、2018年5月12-13日)
- 仕事における個人の価値観と「組織」の関係は何か (6名、2018年10月20-21日)
- 組織とは何か (7名、2019年4月20-21日)
- 組織とは何か (6名、2019年12月14-15日)
- 組織とは何か (10名、2021年2月27-28日)

(2) 補助的な調査として、医療・福祉に関連する市民団体「ウェル・リビングを考える会」(神戸市)と協力し、2019年度に合計7回の対話ワークショップを実施した。ワークショップは「人生のよりよい最期を迎えるために：自分の生き方・死に方をあらかじめ考えておきましょう」をテーマとし、招待講師がテーマに関する話題提供を行い、その後、一般(非専門家)と医療・福祉の専門家からなるグループに分かれて対話、最後に全員で対話の内容を共有するという方法をとった。以下が実施した対話ワークショップのテーマ・実施日である。参加者の人数は10~20名前後であった。またこのワークショップの記録は、報告書「在宅でのアドバンス・ケア・プランニングにおけるオープン・ダイアログの可能性」(2020年5月)としてまとめられた。

- 人工栄養：口から食べられなくなったら (2019年5月18日)
- 認知症患者のリビングウィル (2019年6月15日)
- 脳死と植物状態 (2019年7月13日)
- 心肺蘇生法：人工呼吸器を付けますか (2019年9月21日)
- 慢性腎不全：人工透析続けますか (2019年11月16日)
- オープン・ダイアログと哲学対話 (2020年1月18日)
- 緩和ケアについて (2020年2月1日)

(3) 本研究に関連する考察として、論文「哲学する装置：ソクラテック・ダイアログ」(『環境会議』秋号、事業構想大学院大学出版部、2018年9月、178~183頁)、「ソクラテック・ダイアログ：理想とは何か」(『臨床哲学ニューズレター』第3号、大阪大学臨床哲学研究室、2021年3月、35~37頁)を発表した。また上記(1)の研究成果として、著書『学際研究からみた医療・福祉イノベーション経営』(都市経営研究叢書6、日本評論社、2022年3月、編者：新ヶ江章友)を刊行した。担当箇所は、第4章「哲学対話から見えてくる「組織」」(66~88頁)であ

る。ここで、関係する人々が具体的な経験に基づきながら「組織」をどのように捉えているか、その実践的・理論的な意義がどこにあるのか、などについて考察している。

(4) 本研究に関連して、以下の研究発表を行なった。「組織における対話と哲学」(哲学相談治療・臨床哲学国際合同セミナー、2017年8月7日、於：大阪大学、単独発表)、「医療の組織倫理という視点」(第10回応用哲学会、2018年4月8日、於：名古屋大学、共同発表者：服部俊子・大北全俊・樫本直樹)、「哲学する装置：ソクラテック・ダイアログ」(第1回日本哲学プラクティス学会、2018年8月26日、於：明治大学、単独発表)、「組織として倫理を考える：病院内倫理委員会の参与観察から」(第2回東アジア臨床哲学会議、2019年10月20日、於：台湾国立政治大学、単独発表)、「病院組織と倫理問題：システム論の視点から」(組織学会2022年度年次大会、2021年10月31日、於：神戸大学・Zoom、共同発表者：服部俊子)。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Taketoshi Okita, Atsushi Asai, Seiji Bito, Tsuyoshi Horie	4. 巻 30(5)
2. 論文標題 The Application of Artificial Intelligence (AI) to the Medical Field: Report of a Qualitative Investigation	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Eubios Journal of Asian and International Bioethics (EJAIB)	6. 最初と最後の頁 230-233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 堀江剛	4. 巻 3
2. 論文標題 ソクラティック・ダイアログ：理想とは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床哲学ニュースレター	6. 最初と最後の頁 35-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 服部俊子、大北全俊、榎本直樹、堀江剛	4. 巻 9
2. 論文標題 病院における臨床倫理の取り組みを問い直す視点：ある市民病院の委員会活動から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 人間と医療	6. 最初と最後の頁 13-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 堀江剛	4. 巻 秋号
2. 論文標題 哲学する装置：ソクラティック・ダイアログ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 環境会議	6. 最初と最後の頁 178-183
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 堀江剛
2. 発表標題 組織として倫理を考える：病院内倫理委員会の参与観察から
3. 学会等名 東アジア臨床哲学会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 堀江剛
2. 発表標題 哲学する装置：ソクラティック・ダイアローグ
3. 学会等名 日本哲学プラクティス学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀江剛
2. 発表標題 組織における対話と哲学
3. 学会等名 哲学相談治療・臨床哲学 国際合同セミナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 堀江剛
2. 発表標題 Philosophy as a Therapy: Spinoza and Philosophical Counseling
3. 学会等名 International Conference On Philosophical Counseling & Therapy（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 服部俊子・大北全俊・樫本直樹・堀江剛
2. 発表標題 「医療の組織倫理」という視点
3. 学会等名 応用哲学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 堀江剛・服部俊子
2. 発表標題 病院組織と倫理問題：システム論の視点から
3. 学会等名 組織学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 堀江剛
2. 発表標題 意思の「不確定性」に向き合う：日本における透析中止事件から
3. 学会等名 東アジア臨床哲学会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 堀江剛	4. 発行年 2017年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 233
3. 書名 ソクラティック・ダイアログ：対話の哲学に向けて	

1. 著者名 新ヶ江章友・川村尚也・岩崎安伸・服部俊子・堀江剛・阿久澤麻里子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 165
3. 書名 学際研究からみた医療・福祉イノベーション経営	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	榎本 直樹  (Kashimoto Naoki)  (20622533)	産業医科大学・医学部・講師    (37116)	
研究分担者	土師 俊子 (服部俊子)  (Haji Toshiko)  (50609112)	大阪市立大学・大学院都市経営研究科・准教授    (24402)	
研究分担者	大北 全俊  (Ookita Taketoshi)  (70437325)	東北大学・医学系研究科・准教授    (11301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 哲学対話についての講演会・ワークショップ：ベルギー・スイスでの活動から	開催年 2019年～2019年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------